

ひまわり

令和6年6月号



↑カラー版はこちらから

「ウェルビーイング」

校長 門脇 伸也

6月1日(土)、御家族に限る授業参観ですが、人数制限をせず参観していただくことができ、校内に教職員・お子さん・御家族の微笑ましい光景が少しずつ戻ってきました。

6月28日(金)、全国特別支援学校肢体不自由教育校長会総会がオリンピック青少年記念センターにて開催されました。文部科学省からの挨拶の中で、「コロナ禍や社会構造の変化を背景に、子どもたちの抱える障害が多様化する中、一人ひとりのウェルビーイング※の確保が必要」であること、「教員・子ども双方が幸せに感じる学校づくり」により、教育を通じて一人ひとりの多様な幸せと社会全体の幸せ(ウェルビーイング)の実現を目指していく、子どもたち主体の教育に転換する」とありました。(※Well-being: 新しい「ものさし」・コンセプト。経済だけではなく「こころ」の充足、生活への評価・感情・価値、健康まで含めてとらえること。)

このウェルビーイングの視点により、文科省は以下の①～④の取り組みを学校教育にて行っています。

- ①一人一台端末の本格運用に係る環境整備
- ②学びの継続と保証(オンライン学習の継続)
- ③学びの多様化
- ④新たな学びに対応した指導体制等の整備 などです。

こうした中で、教員のウェルビーイングとはどのように形成されていくのでしょうか。それは、日々の授業の中や放課後で形成されていきます。

A教諭 「今日の授業は、上手くいきましたね。」

B教諭 「実は、自分自身として振り返ると今日は上手くいかなかったけど、少しずつではありますが、子どもたちの心身の状態は良くなってきていると思います。」

A教諭 「そうだね。指導を継続してきてよかったですね。こんなことは出来ないと思ったけど、出来るようになってきましたね。表出も分かりやすくなりましたよね。」

このように教員が日々思っていることを言葉に出し合って、その日の授業を振り返ることが、教員の幸せと力量形成と言ってもよい大切な時間となります。主に放課後、学年や授業グループの中で情報交換をする時間です。今までもその日の授業を振り返ろうとしてきました。しかし、まとまった時間をなかなかとれないのが現状です。急いで退勤時間の前にあちらこちらで言葉を交わしている光景を目にしてきました。いずれにしても教員はやりがい、手応えを求めます。なかなか障害のある子どもへの指導で手応えを感じることは難しいかもしれません。まして目に見える成果はすぐには出て来ないかも知れません。が、一つ一つの支えが子どもの動き、あるいは表出へとつながり、そのことに意味付けをしてあげたいという教員の願いと、時間を確保することをよしとする職場づくりが、教員の幸せと力量形成にとって大切なこととなります。

令和6年度、新宿養護学校にとっては教員育成の年度です。教員の異動により、小・中学校から、特別支援学校でも他障害種から転入した教員や新規採用の者もいます。肢体不自由教育校の教員として必要な知識や技量、アセスメント等について、研究・研修時間を丁寧に積み上げていく必要があります。また、本校は区内公立中学校に所属し中学校の教員研修(年間4回)へ参加します。この時間は短縮授業とすることで生み出しています。保護者及び関係機関の皆様、コロナ禍後の学校づくりの通過点として、安全安心な学校づくりのためにも、子どもたちの力になる授業作りのためにも御理解と御協力のほど、よろしく願いいたします。

「すみれ・高つくしグループ半日校外学習」

6月7日（金）、すみれ・高つくしグループは半日校外学習で、消防博物館へ行ってきました。事前にグループのメンバーと見学したい展示を決め、期待を胸に当日を迎えました。「現代の消防」がテーマのフロアでは、さまざまな災害から命を守るために広く活動する消防の役割について学習できます。中でも、「お絵かき救急車」の体験を子どもたちはとても楽しみにしていました。それぞれが救急車の絵に自由に色を塗り、壁に投影される架空の街にオリジナルの救急車を走らせます。自分で完成させた作品が道路を走っていく様子を見て、子どもたちは満面の笑みで喜んでいました。また、消火や救急活動に関する模型のショーステージにも注目しており、最後までよく集中して見学することができました。気になっていた展示の全てを見学・体験することができ、充実した半日校外学習となりました。



「低つくし・ばらグループ半日校外学習」

6月14日（金）、低学年つくし・ばらグループは、半日校外学習で都庁展望台へ行きました。事前学習では、展望室から見える景色の写真を見ながら、新宿養護学校や新宿御苑、スカイツリーなどが見えることを知り、「自分でも見てみたい!」と楽しみにしていました。当日は、みんなバスに乗る時からいつもと違う学習の雰囲気にワクワクしていました。当日は天候に恵まれ、遠くの景色まではっきり見ることができ、色々な建物を見つけるとは、嬉しそうにしおりにシールを貼っていました。また、展望台の中にある「都庁おもいでピアノ」を弾いた児童もいました。演奏が終わった際には、周りから拍手をもらい、嬉しそうにする様子も見られました。みんな地上45階からの景色を存分に楽しみ、貴重な体験をした一日になりました。



研究部より

「今年度の研究について」

今年度の本校の研究は、「アセスメント」を研究テーマに設定しました。

アセスメント (assessment) とは、「評価、査定」という意味で、医療や介護の現場でも活用されています。児童・生徒の現状を客観的に把握することにより、実態に合った指導や環境の改善ができると考えました。

5月15日の研究日には、東京教育専門学校講師の松原 豊先生を講師にお迎えして、「特別支援学校におけるアセスメントをもとにした個別最適な学習」についてお話を伺いました。6月12日の研究会では、本校の金田実副校長・山本主任教諭・久才主任教諭から「NCプログラム」について、講演・グループごとの研修を行いました。2つの研修を通して、様々なアセスメントの方法やその結果を基にした教材や指導方法があることを学びました。今後は、新宿養護学校の児童・生徒の実態に合ったアセスメントの方法を検討してまいります。

